## 【教育目標】「創造性豊かで、頼もしい人づくり」

## 【めざす児童像】

- ①互いに学び合う子【知】
- ②やさしく助け合う子【徳】
- ③健康で命を大切にする子【体】
- ④地域を大切にし礼儀正しい子【郷土愛】

## 【目指す学校像】

- ・子どもが主体的に活動できる学校
- ・学力が向上する学校
- ・職員・児童ともに協働できる学校
- ・地域とともに歩む学校

項目	評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	達成度評価基準
学習指導	児童の学習力向 上を目指す ・学習意欲を 高める	・話を聞く時、聴こうとする姿勢や態度になるように 授業のルール・マナーを必要な場面で指導する	授 業 づくり	話す人の方を見て、聴こうとしている	児童の意識調査「話す人の方を見て、 聴いている」 研究授業での児童の姿 A:70%以上 C:60%未満
	・学びの経験値を高める 基礎的・基本的の 定指を同じた は しょう は しょう は かん は かん は かん は かん ない は かん ない かん ま の かん ま しゅう かん は かん	・児童が自分の考えを持てる学習課題の工夫 (興味・具体的・明確) ・用語、既習内容、資料の見方・考え方など、児童 の考えの手がかりを示すものの有効な提示方法 の工夫		自分の考えをもって、授業に臨んで いる	児童の意識調査「授業に、自分の考えをもって臨むことができる」 児童のノート検証 A:70%以上 B:60%以上 C:60%未満
		・書く活動の充実 条件にそって、自分の考えを書く	基盤づくり	条件にそって、自分の考えを書いて いる	条件にそって、自分の考えを書いている(短作文)児童の割合 A:70%以上 B:60%以上 C:60%未満
生徒指導	自尊感情・自己 肯定感を高める	・教師主導から児童の企画運営による諸活動 (達成感や満足感を高める) ・生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・ 共感的人間関係)を生かした委員会活動や 行事の運営	特別活動	児童が自分達で決め、協力して活動 する場を作り、児童の満足感や達成 感につながっている	児童の意識調査 「学級や学校をよりよくするために自 分たちで考えて活動している」と答え た児童の割合 A:80%以上達 B:70%以上 C:70%未満
	いじめ、不登校 の未然防止	・あいさつ、あきらめない、あとかたづけを通した集団づくり(3あ運動) ・生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・ 共感的人間関係)を生かした諸活動の推進 ・いじめアンケートやQ-Uアンケートの実施と 結果を生かした迅速な対応(いじめ防止基本 方針より) ・外部の専門家との連携	生徒指導	児童がお互いに助け合い、協力して 活動する場を作り、児童の友達との 温かな関係づくりにつながっている	児童の意識調査 「安心して学校で生活している」と答え た児童の割合 A:85%以上達成 B:80%以上 C:80%未満
心の教育・体力向上	豊かな心を育て る道徳教育を推 進する	・道徳的価値についての理解をもとに、自分との関わりで自己の生き方について考えを深める授業・保護者や地域と連携した道徳の授業 (授業の公開・保護者参加型・ゲストティーチャーの活用)	道徳推進	児童が自分自身を見つめ、自己の生 き方について考えを深めている	児童の意識調査 「よりよい学校生活・集団生活の充実」 の項目において、肯定的な意見の児 童の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:70%未満
	望ましい生活習 慣の確立を図 り、健康管理を 推進する	・早寝・早起き・朝ご飯の推進 ・SNS機器の利用についての指導	. 健 康 美 化	早寝・早起き・朝ご飯を中心とした指導を行い、望ましい生活習慣が身に ついている	就寝時間を守っている児童の割合(低 学年9時半、中学年10時、高学年10 時半) A:80%以上 B:70%以上 C:60%以下
	児童の体力向上 に努める	・年間を通して跳躍力と柔軟性の向上を目指す		年間を通した取組により, 児童の柔 軟性が向上している	4・5・6年生の平均 立ち幅とび +8cm(前年度比) 長座体前屈 +5cm(前年度比) 2項目6学級 達成した学級の数 A:5~6学級 B:3~4学級 C:0~2学級
域との連携保護者や地	保護者や地域から信頼される「開かれた学校づくり」を目指す	・学校ホームページの作成と更新 ・学級便りの発行	教 頭	児童の様子を地域や保護者に積極 的に発信している	月2回以上学級通信を発行した学級 の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:80%以下
た善多 取に付 組 け 改	教職員全体の働き方に関する意 識改革を進める。	・定時退庁日の設定 第4水曜日 ・勤務時間終了時刻の目標設定 ・教職員の勤務状況の把握と指導・助言		職員は業務終了時刻を意識して仕事をしている	時間外勤務時間が月80時間以上の 教員数の昨年度のとの比較 A:50% B:80% C:100%以上